

全般季節予報支援資料 3か月予報 2017年3月24日

予報期間：2017年4月～2017年6月 気象庁地球環境・海洋部

全般季節予報

(1) 出現の可能性が最も大きい天候

4月 全国的に天気は数日の周期で変わるでしょう。北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。東日本太平洋側、西日本では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

5月 北日本と東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。東日本日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

6月 北日本と東日本日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

(2) 確率予報

気温	3か月(%)	4月	5月	6月
	低 並 高	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	20:30:50	20:40:40	20:40:40	20:40:40
東日本	20:40:40	30:30:40	20:40:40	20:40:40
西日本	20:30:50	30:30:40	20:30:50	20:40:40
沖縄・奄美	20:30:50	30:40:30	20:30:50	20:40:40

降水量	3か月(%)	4月	5月	6月
	少 並 多	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本日本海側	30:40:30	30:40:30	30:40:30	30:40:30
北日本太平洋側	30:40:30	30:40:30	30:40:30	30:40:30
東日本日本海側	30:40:30	30:40:30	40:30:30	30:40:30
東日本太平洋側	40:40:20	40:40:20	40:30:30	30:40:30
西日本日本海側	40:40:20	40:40:20	40:30:30	30:40:30
西日本太平洋側	40:30:30	40:40:20	40:30:30	30:30:40
沖縄・奄美	30:40:30	30:40:30	30:40:30	30:30:40

予報資料の解釈

● 3 か月平均

- 熱帯の海面水温（SST）は、予報期間内はエルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態が続く可能性が高い（3月10日発表のエルニーニョ監視速報を参照）が、太平洋西部では海面水温が高い状態が続く見込み。
- 熱帯で太平洋西部の海面水温が高いため、フィリピン付近では、対流活動が活発な予測となっている。これに対応して、200hPa 速度ポテンシャルでは、弱いながらフィリピン付近で発散偏差（負偏差）となっている。
- 200hPa 流線関数は、フィリピン付近の活発な対流活動の影響で、華南から日本の南にかけて高気圧性循環偏差の極大がみられる。これに対応して、日本付近の偏西風は、大陸東部で北に蛇行し、日本の東で南に蛇行する東谷傾向が予測されている。また、偏西風の蛇行には、インド洋の対流活動が不活発であることも寄与していると考えられる。
- 500hPa 高度では、大陸東部から日本付近では正偏差、日本の東では負偏差で東谷傾向が予測されている。
- 北半球層厚換算温度は、地球温暖化の影響で正偏差を維持しており、南ほど高い予測となっている。予報期間内も+0.5℃程度の正偏差が続く予測。
- 850hPa 気温では、概ね北緯 30 度以南は北半球全域で正偏差で、正の高偏差確率もみられ、大陸南部から日本の南にかけて高い予測となっている。全球的に熱帯域の SST が高いことや地球温暖化と関係しているとみられ、このモデルの高温傾向は採用。日本付近では、西ほど偏西風が北に蛇行する影響を受けることから、西日本以西を中心に暖かい空気に覆われやすいと見込む。
- 海面気圧は、500hPa 高度と対応して、日本の東で強い負偏差、日本の南は正偏差となっている。亜熱帯高気圧は、日本の南で強い予測となっており、これは、フィリピン付近の対流活動が活発な影響と考えられることから、モデル通り採用する。日本の東の負偏差は波列等の影響も考えられるため割り引いて考える。
- 以上から、気温は、東日本で平年並か高く、北・西日本と沖縄・奄美では高い見込み。降水量は、東谷傾向の影響を受ける東・西日本では少雨傾向を見込む（東日本日本海側を除く）。

● 4 月

- 熱帯の海面水温（SST）は、太平洋の日付変更線付近で負偏差、そのほかは正偏差が予測されている。特に、太平洋西部では周辺の海域と比較して SST 正偏差が大きい状態が続く見込み。
- 熱帯の降水量は、SST 分布と対応して、フィリピン付近で平年より多く、太平洋の日付変更線付近では平年より少ない。これに対応して、200hPa 速度ポテンシャルでは、フィリピン付近で発散偏差（負偏差）、太平洋日付変更線付近で収束偏差（正偏差）となっている。
- 200hPa 流線関数は、フィリピン付近の活発な対流活動の影響で、華南から日本の南にかけて高気圧性循環偏差の極大がみられる。これに対応して、日本付近の偏西風は、大陸東部で北に蛇行し、日本の東で南に蛇行する傾向が予測されている（東谷傾向）。
- 500hPa 高度は日本の東で偏西風が南に蛇行する傾向から、日本付近から日本の東にかけて負偏差が予測されている。
- 850hPa 気温は、日本付近は正偏差が予測されているが、偏差の程度は小さい。
- 以上から、気温は東・西日本、沖縄・奄美ではほぼ平年並だが、北日本では最新の 1 か月予報から高温傾向を見込む。降水量は、東谷傾向を考慮し、東日本太平洋側、西日本で平年並か少ないと見込む。その他の地方はほぼ平年並。

➤ 想定される天候

- ・ 全国的に天気は数日の周期で変わる。
- ・ 北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 東日本太平洋側、西日本では、高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多い。

● 5月

- ・ 熱帯の SST 分布は太平洋西部で引き続き高いものの、日付変更線付近の負偏差がなくなり、4月に比べると東西のコントラストが弱まる。
- ・ 熱帯の対流活動は、SST 分布の東西コントラストは弱まるものの、フィリピン付近の対流活動は引き続き活発な予測となっており、4月に見られた偏西風の蛇行は弱まるものの、弱い東谷傾向は継続すると見込む。また、偏西風の蛇行には、インド洋の対流活動が不活発であることも寄与していると考えられる。
- ・ 500hPa 高度は、日本の北東付近に強い負偏差が予測されているが、これは波列等の影響と考えられ、モデルの予測精度も低いことから、割り引いて考え、偏西風の蛇行は4月よりは弱まると見込む。
- ・ 850hPa 気温も、日本の北東付近に強い負偏差が予測されているが、500hPa 高度と同様に、割り引いて考え、大気全体の高温傾向からほぼ全球的に正偏差となると見込む。日本付近では、西ほど偏西風が北に蛇行する影響を受けることから、西日本以西を中心に暖かい空気に覆われやすいと見込む。
- ・ 海面気圧は、日本の北東付近の強い負偏差が見られるが、500hPa 高度と同様に割り引いて考え、日本付近の偏差は小さいと見込む。なお、オホーツク海高気圧の出現は現時点では予測できない。
- ・ 以上から、気温は全国的に高温傾向だが、西ほど高温を見込む。降水量は全国的にはほぼ平年並を見込むが、弱い東谷傾向を考慮して、東・西日本では若干の少雨傾向を見込む。

➤ 想定される天候

- ・ 北日本と東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。
- ・ 東日本日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

● 6月

- ・ 熱帯の SST 分布は東西のコントラストは弱まるが、太平洋西部で引き続き高い。
- ・ 熱帯の対流活動は、フィリピン付近の対流活動は引き続き活発な予測となっている。
- ・ 200hPa 流線関数は、4月に見られた偏西風の蛇行による日本付近の東谷傾向は消え、北半球全体で負偏差が予測されている中で、日本付近は相対的に正偏差が予測されている。これは、6月になると季節進行により、偏西風は弱まりながら北上することから、フィリピン付近の対流活発の影響による、4月にみられたような偏西風の蛇行が出現しにくくなるためと考えられる。このため、フィリピン付近の対流活発の影響は、日本付近の高度を上げる方向に働くと考える。
- ・ 500hPa 高度や850hPa 気温は、フィリピン付近の対流活発の影響により、日本付近は正偏差が予測されている。
- ・ 海面気圧は、3か月平均と同様に日本の南に弱い正偏差が予測されており、これはフィリピン付近の対流活動が活発な影響と考えられることから、モデル通り採用し、日本の南で亜熱帯高気圧がやや強い傾向を見込む。
- ・ 以上から、気温は全国的に高温傾向を見込む。降水量は全国的にはほぼ平年並だが、亜熱帯高気

圧がやや強い傾向を考慮し、南から湿った気流が入りやすい西日本太平洋側、沖縄・奄美では若干の多雨傾向を見込む。

➤ 想定される天候

- ・ 北日本と東日本日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・ 東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

3月(20日まで)の天候経過

本州付近は大陸からの高気圧に覆われることが多く、北・東・西日本では晴れる日が多かった。沖縄・奄美では前線や低気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。6日は、日本付近を低気圧が通過し全国的に天気が崩れた。11日は沖縄・奄美付近を前線が通過し、沖縄・奄美では雨となった。

気温は、北・東日本で平年を上回り、西日本、沖縄・奄美で平年を下回った。降水量は、沖縄・奄美で平年を上回り、北・東・西日本で平年を下回った。日照時間は、沖縄・奄美で平年を下回り、北・東・西日本で平年を上回った。

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。